

5-2 地域交通（交通混雑、交通安全）

工事中（工事用車両の走行）により、地域交通（交通混雑、交通安全）への影響のおそれがあることから、環境影響評価を行った。

(1) 現況調査

1) 調査項目

ア. 地域社会の状況

調査項目は、日常生活圏等の状況、道路の状況及び交通安全の状況とした。

イ. 地形等の状況

調査項目は、交通経路、交通混雑及び交通安全に関連すると考えられる地形の状況とした。

ウ. 土地利用の状況

調査項目は、学校、住宅等の分布状況、用途地域の指定状況及びその他の土地利用の状況とした。

エ. 道路に係る計画等

調査項目は、本事業との関連が想定される既存の交通計画、道路計画等の状況とした。

2) 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲の内、都市トンネル、非常口（都市部）を対象に、工事用車両の走行により地域交通（交通混雑、交通安全）に影響を及ぼすおそれがあると認められる地域として、工事に使用する道路が幹線道路へ合流して交通量の増加割合が小さくなると考えられる区間までとした。

3) 調査方法等

ア. 調査地点

現地調査地点は、工事に使用する道路の状況を的確に把握できる箇所として、調査地域内の代表的な地点及び交通混雑への影響が大きくなると想定される主要交差点までとした。調査地点及び選定理由を、表 5-2-1 及び図 5-2-1 に示す。

表 5-2-1(1) 道路の状況に関する現地調査地点及びその選定理由（断面部）

地点 番号	市区		調査 地区	路線名	選定理由
01	川 崎 市	中原区	等々力	市道幸多摩線	工事に使用する道路周辺にお ける代表的な地点として選定
02		宮前区	梶ヶ谷	市道尻手黒川線	
03			犬蔵	市道尻手黒川線	
04		麻生区	東百合丘	市道野川柿生線	
05				市道尻手黒川線	
06			片平	県道 137 号	

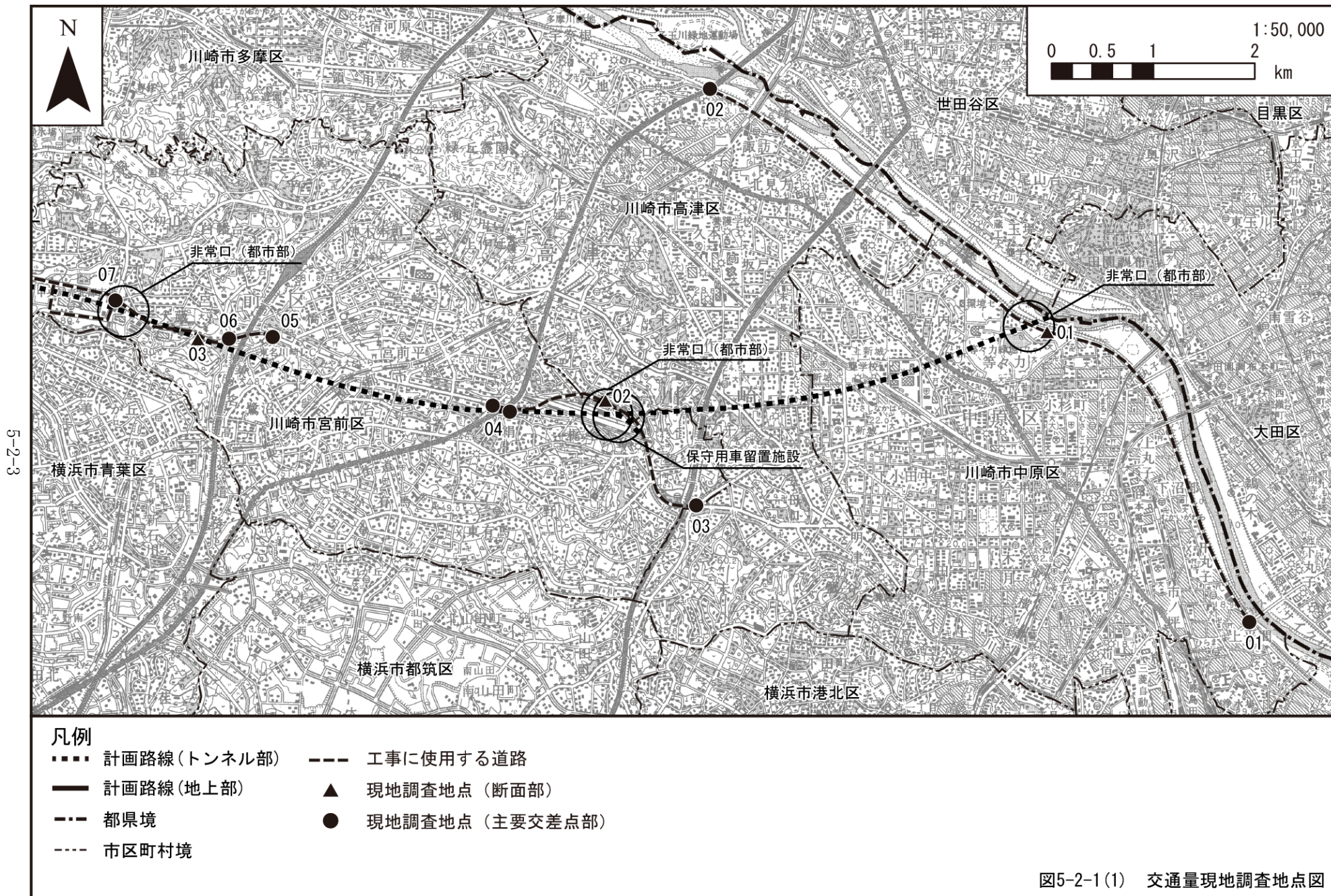
注1. 市区、調査地区は、工事の実施及び鉄道施設の位置周辺を記載しているため、路線の存在する位置とは異なる場合がある。

表 5-2-1(2) 道路の状況に関する現地調査地点及びその選定理由（主要交差点部）

地点 番号	市区		調査 地区	交差点名	選定理由
01	川 崎 市	中原区	等々力	ガス橋	工事に使用する道路周辺にお ける代表的な地点として選定
02				厚木街道立体交差	
03		宮前区	梶ヶ谷	野川	
04				尻手黒川国道下・馬絹	
05			犬蔵	東名入口	
06				犬蔵	
07				清水台	
08		麻生区	東百合丘	稗原公民館・稗原	
09				コネッティー前	
10			片平	柿生	
11				黒川	

注1. 市区、調査地区は、工事の実施及び鉄道施設の位置周辺を記載しているため、交差点の存在する位置とは異なる場合がある。

注2. 地点番号02の交差点は、交差点名が無い場合便宜上「厚木街道立体交差」とした。



 計画路線(トンネル部)  工事に使用する道路
 計画路線(地上部)  現地調査地点(断面部)
 工事用道路  現地調査地点(主要交差点部)
 都県境
 市区町村境

図5-2-1(2) 交通量現地調査地点図

イ. 調査期間・調査時期

文献調査の調査時期は、最新の資料を入手可能な時期とした。

道路の状況に関する現地調査の調査時期を、表 5-2-2 に示す。なお、交通量が年間を通して平均的な状況であると考えられる平日とした。

表 5-2-2 交通量の現地調査期間

調査項目（道路の状況）	調査期間・日	調査時間・頻度
断面部 自動車交通量	平成 24 年 11 月 8、9 日（木、金）	平日（24 時間）×1 回 12:00～12:00
主要交差点部 自動車交通量 歩行者・自転車交通量 信号現示 滞留長・渋滞長	平成 24 年 11 月 13 日（火）	平日（12 時間）×1 回 7:00～19:00

ウ. 調査方法

ア) 地域社会の状況

a) 日常生活圏等の状況

通学区域、公共交通機関の状況、避難場所等に関する文献、資料を収集し、整理した。
また、通学路の状況は、教育委員会等へヒアリングを行い把握した。

b) 道路の状況

生活道路及び幹線道路の分布、並びに交通量に関する文献、資料を収集し、整理した。
現地踏査により、工事に使用する道路について、交通規制等の状況を把握した。
現地調査により、工事に使用する道路について、交通量、主要交差点部における交通処理状況を把握した。交通量は、断面部での自動車交通量（24 時間観測・60 分集計）、主要交差点部での自動車交通量及び歩行者・自転車交通量（いずれも 12 時間観測・15 分集計）について、車種や歩行者・自転車別、方向別にカウンターを用いて観測し、時間別に記録した。また、主要交差点部における交通処理状況は、滞留長・渋滞長（12 時間観測・15 分集計）の観測及び信号現示の現地確認を行い、時間別に記録した。

c) 交通安全の状況

工事に使用する道路について、交通事故の発生状況を所轄警察署へのヒアリングにより把握した。
現地踏査により、工事に使用する道路について、歩道、横断歩道、歩道橋、カーブミラー、信号機等、交通安全施設の設置状況を把握した。

イ) 地形等の状況

工事に使用する道路の地形等の状況について、地形図等の既存文献により把握した。

ウ) 土地利用の状況

工事に使用する道路の土地利用の状況について、土地利用現況図等の既存文献により把握した。

エ) 道路に係る計画等

工事に使用する道路に係る計画等について、道路整備計画等の既存文献により把握した。

4) 調査結果

ア. 地域社会の状況

7) 日常生活圏等の状況

a) 通学区域、通学路の状況

工事に使用する道路の通学区域、通学路の状況を、表 5-2-3 及び「資料編 1-2 通学区域、通学路調査結果」に示す。

表 5-2-3 通学区域、通学路の状況

市区		調査地区	計画施設の種類	工事に使用する道路	工事に使用する道路の位置する通学区域	工事に使用する道路における通学路の指定状況
川崎市	中原区	等々力	非常口 (都市部)	市道幸多摩線	下河原小、平間小、玉川小、下沼部小、上丸子小、西丸子小、中原小、宮内小、東高津小、高津小、平間中、玉川中、中原中、宮内中、東高津中、高津中、西高津中	通学路に指定されていない。
	宮前区	梶ヶ谷	非常口 (都市部)	市道尻手黒川線	野川小、梶ヶ谷小、宮崎小、野川中、宮崎中	一部区間が野川小、梶ヶ谷小の通学路に指定されている。
		犬蔵	非常口 (都市部)	市道尻手黒川線 県道 13 号 市道梶ヶ谷菅生線(Ⅲ)	富士見台小、土橋小、犬蔵小、菅生小、稗原小、宮前平中、犬蔵中、菅生中	一部区間が、犬蔵小の通学路に指定されている。
	麻生区	東百合丘	非常口 (都市部)	市道尻手黒川線 市道尻手黒川線(Ⅲ) 市道野川柿生線(Ⅶ) 市道麻生 6 号線 市道王禅寺 35 号	富士見台小、土橋小、犬蔵小、菅生小、稗原小、長沢小、王禅寺中央小、南百合小、宮前平中、犬蔵中、菅生中、長沢中、王禅寺中央中	一部区間が犬蔵小、稗原小、長沢小、王禅寺中央小の通学路に指定されている。
		片平	非常口 (都市部)	県道 137 号	柿生小、片平小、栗木台小、はるひ野小、白鳥中、はるひ野中	一部区間が柿生小、栗木台小の通学路に指定されている。

注1. 道路名称は、「平成22年度道路交通情勢調査等結果」（平成25年6月現在、神奈川県県土整備局道路部道路管理課ホームページ）、「川崎市地図情報システムガイドマップかわさき 認定路線網図」（平成25年6月現在、川崎市ホームページ）に基づき記載した。

資料：川崎市教育委員会資料（平成24年10月現在）

b) 公共交通機関の状況

工事に使用する道路の公共交通機関の状況を、表 5-2-4 及び「資料編 1-3 公共交通機関調査結果」に示す。

表 5-2-4 公共交通機関の状況

市区		調査地区	計画施設の 種類	工事に使用 する道路	工事に使用する 道路における バス路線の状況	最寄の鉄道駅
川崎市	中原区	等々力	非常口 (都市部)	市道幸多摩線	二子橋と新二子橋間を東急バスが運行している。	東急東横線新丸子駅 (南東約 1.3km) JR 南武線武蔵中原駅 (南西約 1.4km)
	宮前区	梶ヶ谷	非常口 (都市部)	市道尻手黒川線	川崎市交通局、東急バスが運行している。	東急田園都市線梶が谷駅(北約 1.4km)、 宮崎台駅(西北西約 1.6km)
		犬蔵	非常口 (都市部)	市道尻手黒川線 県道 13 号 市道梶ヶ谷菅生線 (Ⅲ)	川崎市交通局が運行している。菅生車庫を発着する系統がある。	東急田園都市線たまプラーザ駅(南南東約 1.5km)
	麻生区	東百合丘	非常口 (都市部)	市道尻手黒川線 市道尻手黒川線(Ⅲ) 市道野川柿生線(Ⅶ) 市道麻生 6 号線 市道王禅寺 35 号	川崎市交通局、小田急バス、東急バスが運行している。菅生車庫及び田園調布学園大学を発着する系統がある。	小田急小田原線百合ヶ丘駅(北北西約 1.9km)、新百合ヶ丘駅 (西北西約 2.0km)
		片平	非常口 (都市部)	県道 137 号	柿生駅入口と黒川駅間を小田急バスが運行している。	小田急多摩線栗平駅 (北約 1.0km)、五月台 (東北東約 1.2km)

資料：「神奈川県乗合バス・ルートあんない No. 2」(平成22年9月、株式会社人文社)
バス会社各社資料(平成25年6月現在)

c) 避難場所等の状況

工事に使用する道路の避難場所等の状況を、表 5-2-5 及び「資料編 1-4 避難場所等調査結果」に示す。

表 5-2-5 避難場所等の状況

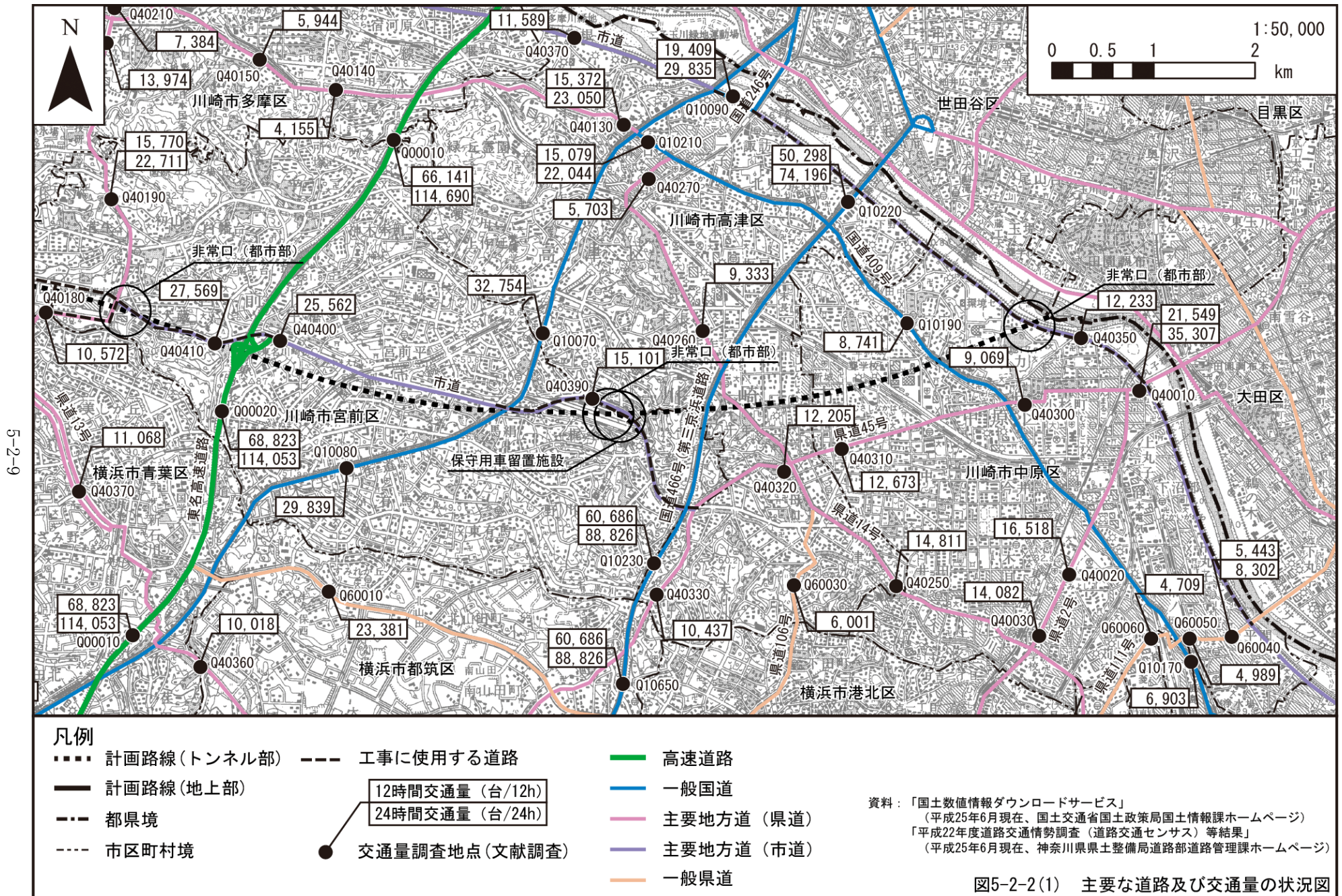
市区		調査 地区	計画施設 の種類	工事に使用 する道路	工事に使用する道路 の位置する避難所管轄区域
川 崎 市	中原区	等々力	非常口 (都市部)	市道幸多摩線	下河原小、平間中、玉川小、玉川中、市立橋高、下沼部小、教育会館、上丸子小、中原市民館、中原中、市民ミュージアム、宮内中、宮内小、東高津小、高津図書館、高津小、総合教育センター、大山街道ふるさと館、西高津中
	宮前区	梶ヶ谷	非常口 (都市部)	市道尻手黒川線	野川小、西野川小、野川中、梶ヶ谷小、宮崎中、宮崎小
		犬蔵	非常口 (都市部)	市道尻手黒川線 県道 13 号 市道梶ヶ谷菅生線 (Ⅲ)	富士見台小、土橋小、犬蔵小、犬蔵中、菅生小、菅生中
	麻生区	東百合丘	非常口 (都市部)	市道尻手黒川線 市道尻手黒川線 (Ⅲ) 市道野川柿生線 (Ⅶ) 市道麻生 6 号線 市道王禅寺 35 号	富士見台小、土橋小、犬蔵小、犬蔵中、菅生小、菅生中、稗原小、長沢小、長沢中、王禅寺中央小
		片平	非常口 (都市部)	県道 137 号	柿生中、柿生小、片平中、白鳥中、栗木台小、はるひ野小・中学校

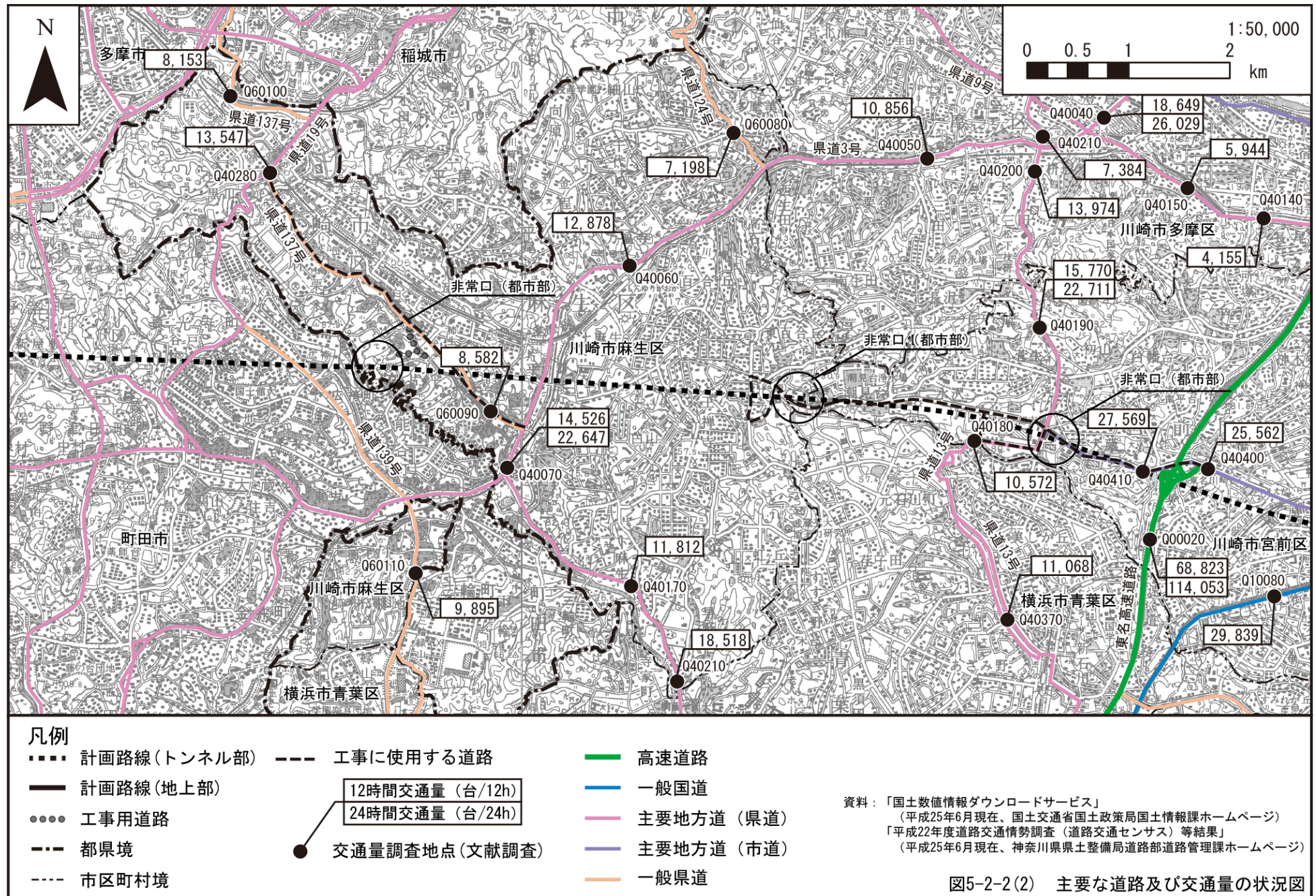
資料：「川崎市防災マップ」（平成25年6月現在、川崎市総務局危機管理室ホームページ）

4) 道路の状況

a) 主要な道路の状況

工事に使用する道路周辺の主要な道路の状況を、図 5-2-2 に示す。





b) 交通規制の状況

工事に使用する道路に係る交通規制の状況を、表 5-2-6 に示す。

表 5-2-6 交通規制の状況

市区		調査地区	計画施設の 種類	交通規制の状況
川崎市	中原区	等々力	非常口 (都市部)	工事用車両の走行が予定されている市道幸多摩線は、一方通行規制等を行われていない。
	宮前区	梶ヶ谷	非常口 (都市部)	工事用車両の走行が予定されている市道尻手黒川線は、一方通行規制等を行われていない。
		犬蔵	非常口 (都市部)	工事用車両の走行が予定されている市道尻手黒川線、県道 13 号、市道梶ヶ谷菅生線 (Ⅲ) は、一方通行規制等を行われていない。
	麻生区	東百合丘	非常口 (都市部)	工事用車両の走行が予定されている市道尻手黒川線、市道尻手黒川線 (Ⅲ)、市道野川柿生線 (Ⅶ)、市道麻生 6 号線、市道王禅寺 35 号は、一方通行規制等を行われていない。
		片平	非常口 (都市部)	工事用車両の走行が予定されている県道 137 号は、一方通行規制等を行われていない。

c) 自動車交通量

①文献調査

工事に使用する道路周辺の交通量の文献調査結果を、図 5-2-2 に示す。

②現地調査

自動車交通量の現地調査結果を、表 5-2-7 に示す。

表 5-2-7(1) 自動車交通量現地調査結果（断面部）

地点 番号	路線名	交通量（台/日）		
		大型車	小型車	合計
01	市道幸多摩線	6,364	13,556	19,920
02	市道尻手黒川線	3,984	20,250	24,234
03	市道尻手黒川線	4,794	29,764	34,558
04	市道野川柿生線	681	2,733	3,414
05	市道尻手黒川線	2,162	20,803	22,965
06	県道 137 号	1,200	9,004	10,204

注1. 詳細は「資料編1-1 自動車交通量（断面部）調査結果」参照

表 5-2-7(2) 自動車交通量現地調査結果（主要交差点部）

地点 番号	交差点名	総流入 交通量 (台/12h)	大型車 混入率 (%)
01	ガス橋	17,499	24.8
02	厚木街道立体交差	19,265	25.7
03	野川	30,040	12.5
04	尻手黒川国道下・馬絹	25,823	11.7
05	東名入口	34,421	11.4
06	犬蔵	34,088	10.3
07	清水台	31,122	9.9
08	稗原公民館・稗原	25,664	9.5
09	ヨネッティー前	17,028	10.5
10	柿生	16,721	10.1
11	黒川	17,547	11.7

注1. 詳細は「資料編1-9 自動車実測交通量調査結果と需要交通量算定結果」参照

d) 歩行者・自転車交通量

歩行者・自転車交通量の現地調査結果を、表 5-2-8 に示す。なお、詳細は「資料編 1-5 歩道部歩行者等交通量調査結果」に示す。

表 5-2-8 歩行者・自転車交通量現地調査結果（横断歩道）

地点 番号	交差点名	歩行者（人/12h）	自転車（台/12h）
01	ガス橋	3,156	2,086
03	野川	1,849	2,688
04	尻手黒川国道下 馬絹	997	859
		1,869	1,114
06	犬蔵	2,376	1,062
07	清水台	2,479	1,125
08	稗原公民館・稗原	1,172	966
09	ヨネッティー前	711	215
10	柿生	2,065	761
11	黒川	1,133	175

e) 渋滞長

渋滞長の現地調査結果を表 5-2-9 に、各交差点の概略図を図 5-2-3 に示す。なお、詳細は「資料編 1-6 滞留長・渋滞長調査結果」に示す。

表 5-2-9(1) 渋滞長現地調査結果

地点 番号	交差点名	流入部	最大渋滞長 (m)	発生時間帯
01	ガス橋	A	250	10:00～10:15
		B	30	15:30～15:45
		C	400	15:15～15:30 16:00～16:15
		D	35	16:00～16:15
02	厚木街道立体交差	A1	130	8:30～8:45
		A2	10	7:15～7:30 7:45～8:00 9:15～9:30
		B	0	—
		D	110	17:45～18:00
03	野川	A	70	8:15～8:30
		B	85	17:45～18:00
		C	180	10:00～10:15 18:00～18:15 18:15～18:30
		D	150	15:45～16:00
04	尻手黒川国道下・馬絹	A	20	17:15～17:30
		B	0	—
		C	30	7:15～7:30 17:30～17:45
		D	50	7:45～ 8:00 8:00～ 8:15
		E	15	10:30～10:45
		F	0	—
		G	0	—
		H	0	—
05	東名入口	A	15	16:45～17:00
		B	40	17:15～17:30
		D	—	—
06	犬蔵	A	50	17:45～18:00
		B	50	7:15～7:30
		C	70	17:00～17:15
		D	80	9:15～9:30
07	清水台	A	30	14:30～14:45 16:45～17:00 17:30～17:45
		B	100	8:30～8:45
		C	70	12:45～13:00
		D	200	14:15～14:30

注1. 地点番号05東名入口交差点の流入部Dは、東名高速道東名川崎インターチェンジの料金所のため、調査対象外とした。

注2. 発生時間帯の「—」は渋滞の発生がないことを示す。

注3. 渋滞長とは、交差点の流入部の信号機が赤から青に変わった瞬間の車列の最後尾の車両が、1回の青信号で交差点を通過できずに残った場合の、その車両の後端から交差点停止線までの距離をいう。

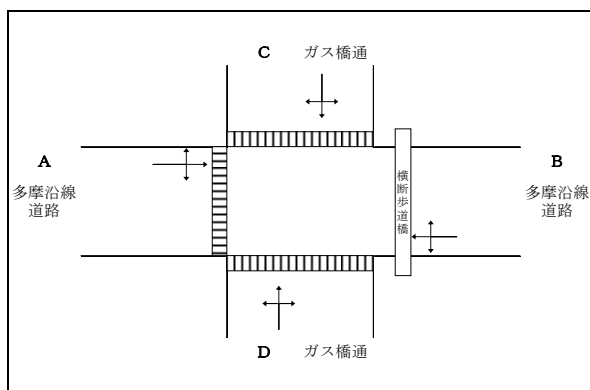
表 5-2-9(2) 渋滞長現地調査結果

地点 番号	交差点名	流入部	最大渋滞長 (m)	発生時間帯
08	稗原公民館・稗原	A1	0	—
		A2	30	16:15～16:30
		B1	50	16:30～16:45
		B2	30	17:15～17:30
		C	60	8:15～8:30
		D	40	17:15～17:30 17:45～18:00
09	ヨネッティー前	A	0	—
		B	0	—
		C	—	—
		D	0	—
10	柿生	A	250	9:15～9:30
		B	20	11:45～12:00 12:45～13:00
		C	180	17:30～17:45
		D	0	—
11	黒川	B	25	17:45～18:00
		C	0	—
		D	0	—

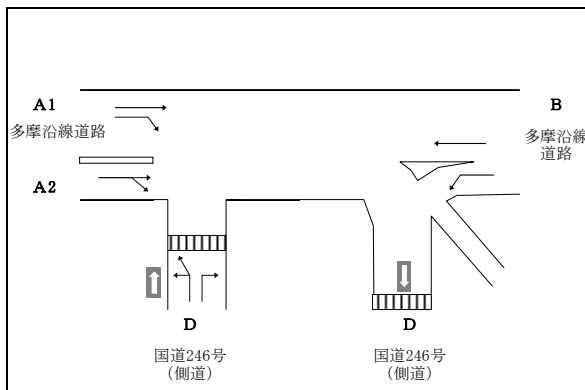
注1. 地点番号09ヨネッティー前交差点の流入部Cは、田園調布学園大学バス停のため、調査対象外とした。

注2. 発生時間帯の「—」は渋滞の発生がないことを示す。

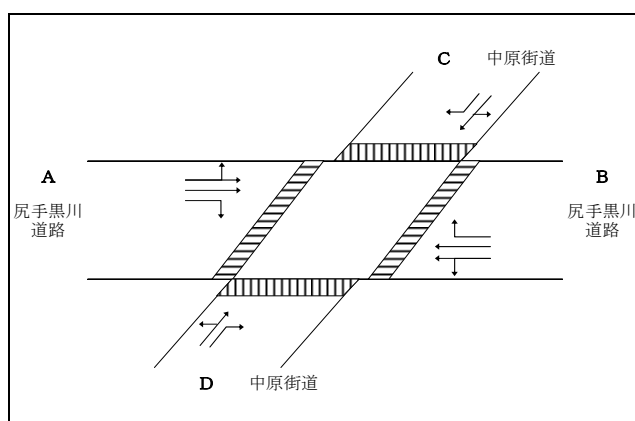
注3. 渋滞長とは、交差点の流入部の信号機が赤から青に変わった瞬間の車列の最後尾の車両が、1回の青信号で交差点を通過できずに残った場合の、その車両の後端から交差点停止線までの距離をいう。



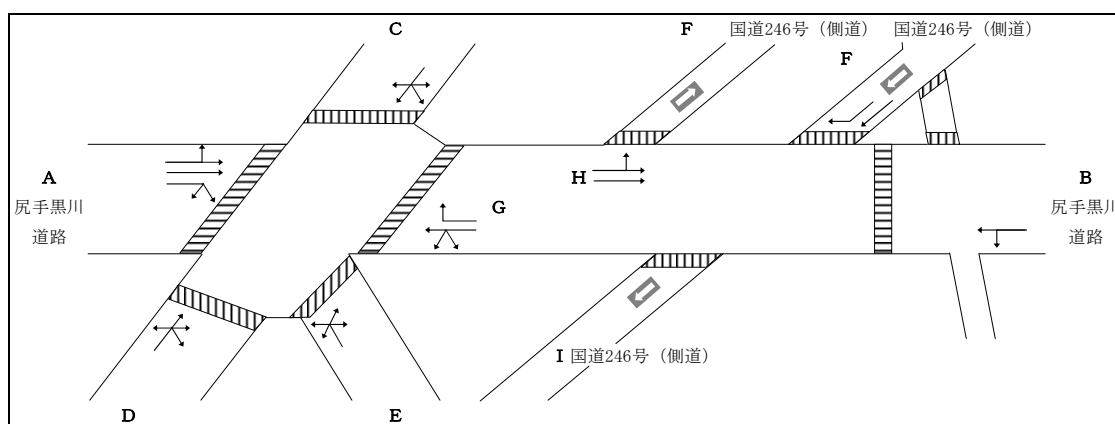
01 ガス橋



02 厚木街道立体交差

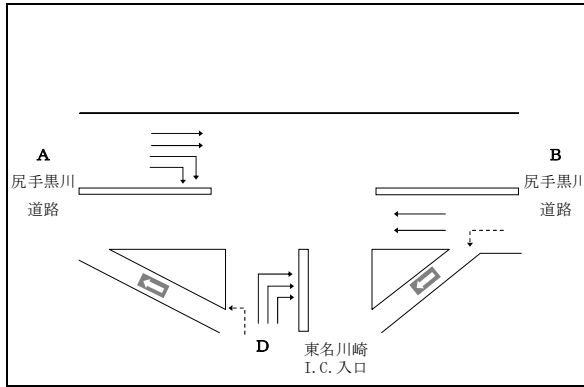


03 野川

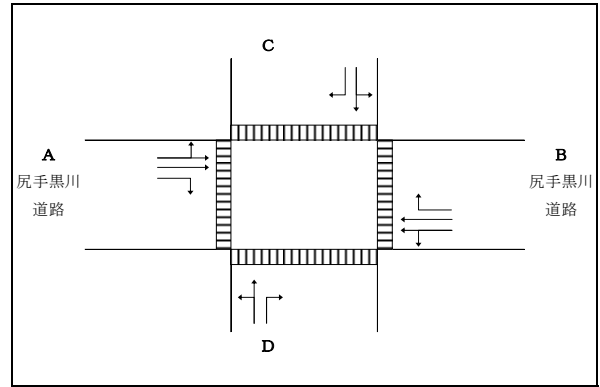


04 尻手黒川国道下・馬絹

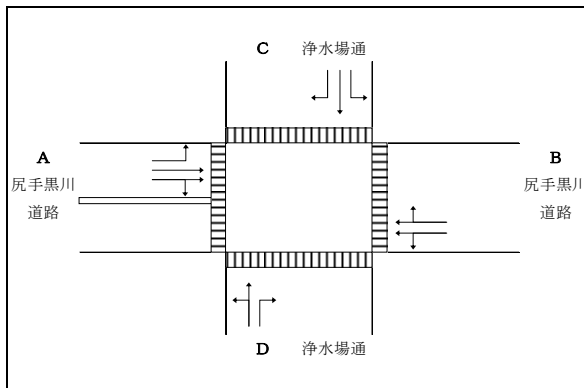
図 5-2-3(1) 現地調査交差点概略図



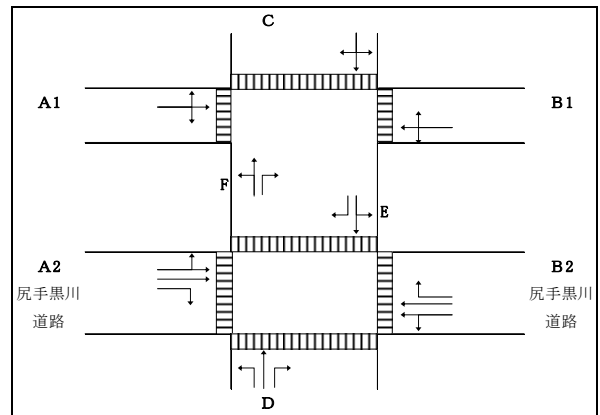
05 東名入口



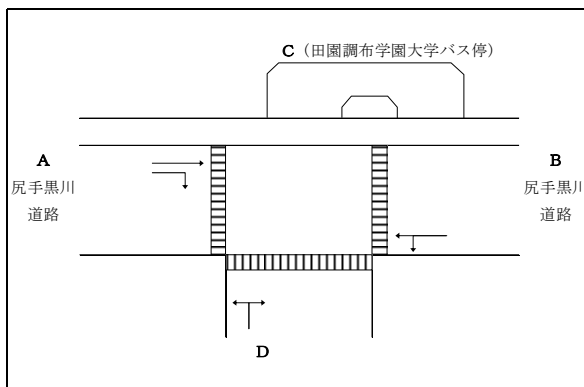
06 犬蔵



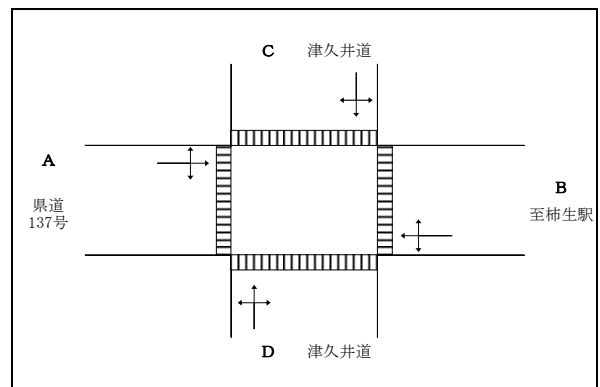
07 清水台



08 稗原公民館・稗原

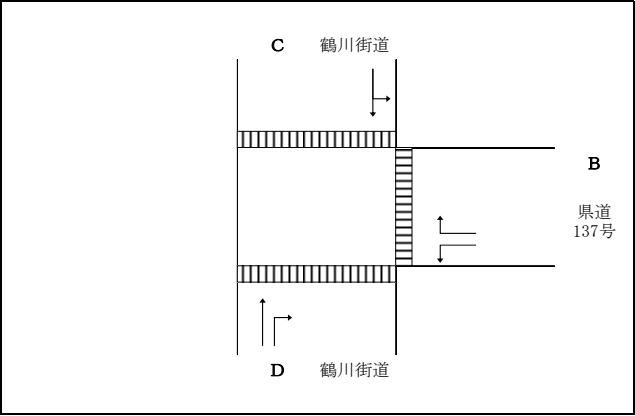


09 ヨネッティー前



10 柿生

図 5-2-3(2) 現地調査交差点概略図



11 黒川

図 5-2-3 (3) 現地調査交差点概略図

り) 交通安全の状況

a) 交通事故の発生状況

工事に使用する道路が位置する行政区における交通事故の発生状況を、表 5-2-10 及び「資料編 1-7 交通事故の発生状況調査結果」に示す。

表 5-2-10 交通事故の発生状況

市区		件 数		
		平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
川崎市	中原区	575	515	506
	高津区	823	767	742
	宮前区	764	659	693
	麻生区	530	430	420

資料：「神奈川県交通事故統計」

(平成 25 年 6 月現在、神奈川県安全防災局安全安心部くらし安全交通課ホームページ)

b) 交通安全施設の設置状況

工事に使用する道路における歩道、横断歩道、歩道橋、カーブミラー、信号機等、交通安全施設の設置状況を、表 5-2-11 に示す。

表 5-2-11 交通安全施設の設置状況

市区		調査地区	計画施設の 種類	交通安全施設の設置状況
川崎市	中原区	等々力	非常口 (都市部)	工事用車両の走行が予定されている市道幸多摩線は歩道のない区間がほとんどであるが、多摩川堤防上にサイクリングコースが整備されている。また、主な交差点には横断歩道及び信号が整備されているほか、歩道橋が設置されている箇所もある。
	宮前区	梶ヶ谷	非常口 (都市部)	工事用車両の走行が予定されている市道尻手黒川線は、歩車道が分離されており、主な交差点には横断歩道及び信号が整備されているほか、歩道橋が設置されている箇所もある。
		犬蔵	非常口 (都市部)	工事用車両の走行が予定されている市道尻手黒川線、県道 13 号、市道梶ヶ谷菅生線 (Ⅲ) は、歩車道が分離されており、主な交差点には横断歩道及び信号が整備されている。
	麻生区	東百合丘	非常口 (都市部)	工事用車両の走行が予定されている市道尻手黒川線、市道尻手黒川線 (Ⅲ)、市道野川柿生線 (Ⅶ)、市道麻生 6 号線、市道王禅寺 315 号は、歩車道が分離されており、主な交差点には横断歩道及び信号が整備されている。
		片平	非常口 (都市部)	工事用車両の走行が予定されている県道 137 号は、一部区間を除き歩車道が分離されており、主な交差点には横断歩道及び信号が整備されている。

イ. 地形等の状況

調査地域における地形等の状況を、表 5-2-12 に示す。

表 5-2-12 地形等及び土地利用の状況

市区	調査地区	計画施設の 種類	地形等の状況	土地利用の状況
川崎市	中原区	等々力	非常口 (都市部)	多摩川河川敷に多摩川緑地、その堰堤近くに等々力緑地が分布している。両緑地の間に工場・倉庫・グラウンド・集落が存在している。
	宮前区	梶ヶ谷	非常口 (都市部)	市道尻手黒川線沿いに店舗・工場・事務所等が存在し、その背後に集落が存在している。南側に集落が存在している。
		犬蔵	非常口 (都市部)	市道尻手黒川線沿いに店舗・事務所等が存在している。市道尻手黒川線の南北に集落が存在している。
	麻生区	東百合丘	非常口 (都市部)	平瀬川右岸の丘陵地の尾根部であり、北側及び南側に緩やかに下る地形となっている。
		片平	非常口 (都市部)	片平川と真光寺川に挟まれた丘陵地の尾根部となっている。

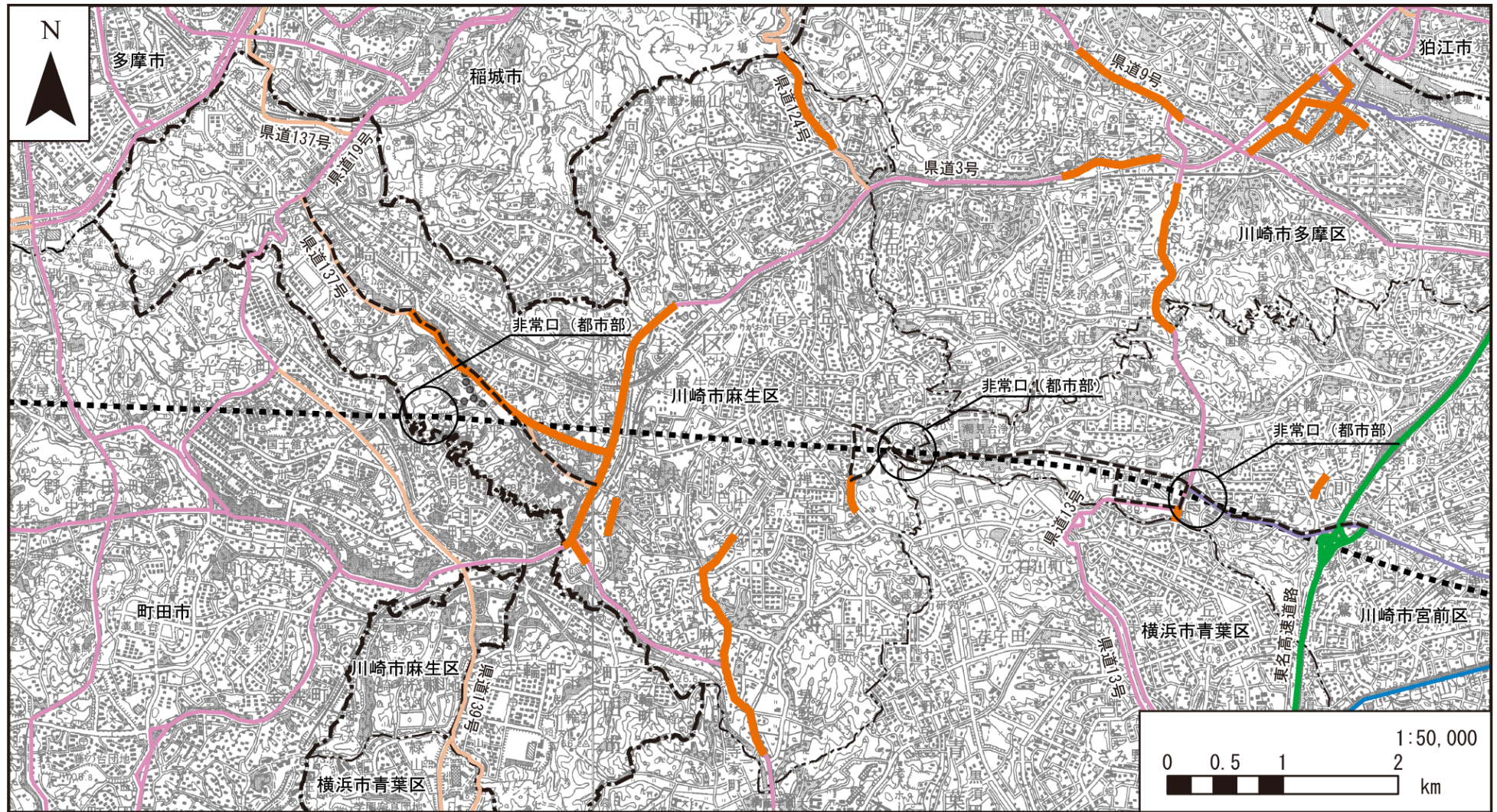
ウ. 土地利用の状況

調査地域における土地利用の状況を、表 5-2-12 に示す。

エ. 道路に係る計画等

工事に使用する道路の交通計画、道路計画等の状況を、図 5-2-4 に示す。

図5-2-4(1) 交通計画、道路計画等の状況図



凡例

- | | | |
|-------------------|---------------|-------------|
| 計画路線(トンネル部) | --- 工事に使用する道路 | — 高速道路 |
| — 計画路線(地上部) | — 整備区間 | — 一般国道 |
| ●●● 工事用道路 | — 連続立体交差による整備 | — 主要地方道(県道) |
| --- 都県境 | | — 主要地方道(市道) |
| ---- 市区町村境 | | — 一般県道 |

資料：「川崎市の道路整備プログラム 平成20年度～26年度～後期
4ヵ年〔H23～H26〕に向けて」
(平成23年3月、川崎市建設緑政局計画部企画課)

図5-2-4(2) 交通計画、道路計画等の状況図

(2) 環境保全目標の設定

環境保全目標は、地域環境管理計画の地域別環境保全水準に基づき、生活環境の保全に支障のないこととした。

(3) 予測

交通量、交通流への影響、交通安全への影響について予測する。

1) 交通量、交通流への影響

ア. 予測手法

ア) 予測項目

予測項目は、工事用車両の走行に係る交通量、交通流への影響とした。

イ. 予測方法等

ア) 予測地域・予測地点

予測地域は、工事用車両の走行に係る交通量、交通流への影響を受けるおそれがあると認められる地域として、調査地域と同様とした。

予測地点は、調査地点を勘案し、対象となる交通混雑の状況を適切に予測することができる地点とした。

イ) 予測時期

工事に使用する道路における工事用車両の1日の走行台数が最大となる時期とし、工事用車両の走行時間帯の中で、各予測地点における工事中の交差点需要率が最も大きい1時間（ピーク時間帯）とした。

工事用車両の1日の走行台数が最大となる時期、走行台数を表 5-2-13 に示す。工事用車両の走行台数の詳細を、「資料編 1-8 工事用車両の走行台数」に示す。

表 5-2-13 予測時期等

地点 番号	交差点名	予測時期	工事用車両台数 (1日あたり、往復)	予測時間帯
01	ガス橋	工事開始後3年目	161台	14:30～15:30
02	厚木街道立体交差	工事開始後3年目	161台	17:00～18:00
03	野川	工事開始後6年目	719台	14:00～15:00
04	尻手黒川国道下・馬絹	工事開始後6年目	719台	16:00～17:00
05	東名入口	工事開始後3年目	666台	7:15～8:15
06	犬蔵	工事開始後3年目	666台	7:45～8:45
07	清水台	工事開始後3年目	666台	7:45～8:45
08	稗原公民館・稗原	工事開始後6年目	546台	7:30～8:30
09	コネッティー前	工事開始後6年目	546台	14:00～15:00
10	柿生	工事開始後3年目	169台	7:15～8:15
11	黒川	工事開始後3年目	338台	8:45～9:45

ウ) 予測条件・予測方法

ア) 予測条件の整理

予測に用いた交通量は、現地調査結果から得られた設計交通量に、工事用車両の走行台数を加えることで算出した。設計交通量を、表 5-2-15 に示す。

イ) 予測方法

工事用車両の走行に伴う交通混雑について、現地調査結果及び推定される工事用車両の発生台数から、「改訂 平面交差の計画と設計 基礎編 第3版」（平成19年6月、社団法人交通工学研究会）に示す方法により交差点需要率を算出し、現況の交差点需要率と対比することで影響の程度を把握した。

交差点需要率＝各信号現示の需要率（A）の合計

A＝同一信号現示中に発生する交差点流入部の需要率（B）の最大値

B＝設計交通量（C）／飽和交通流率（D）

C＝（実測交通量又は需要交通量（E）（渋滞が発生している場合））＋工事用車両台数

D＝飽和交通流率の基本値（ S_B ） $\times \alpha_W \times \alpha_G \times \alpha_T \times \alpha_{LT} \times \alpha_{RT}$

E＝実測交通量＋1時間毎の渋滞長の増減分

α_W ＝車道幅員による補正率

α_G ＝縦断勾配による補正率

α_T ＝大型車混入による補正率

α_{LT} ＝左折車混入による補正率

α_{RT} ＝右折車混入による補正率

表 5-2-14 飽和交通流率の基本値（ S_B ）

車線の種類	飽和交通流率（pcu/青1時間）
直進車線	2,000
左折車線	1,800
右折車線	1,800

注1. pcu：乗用車換算台数

イ) 予測結果

交差点需要率の予測結果を、表 5-2-15 に示す。

表 5-2-15 工事用車両の走行に伴う交通流への影響予測結果

地点 番号	交差点名	予測 時間帯	設計 交通量 (台/時)	工事用 車両台数 (台/時)	設計交通 量に対す る工事用 車両台数 の割合 (%)	交差点需要率		
						現況	工事中	増加分
01	ガス橋	14:30～ 15:30	1,670	18	1.1	0.796	0.814	0.018
02	厚木街道立体交差	17:00～ 18:00	1,791	13	0.7	0.592	0.592	0.000
03	野川	14:00～ 15:00	2,947	84	2.9	0.708	0.801	0.093
04	尻手黒川国道下・馬 絹	16:00～ 17:00	2,344	84	3.7	0.619	0.660	0.041
05	東名入口	7:15～ 8:15	3,604	55	1.5	0.595	0.599	0.004
06	犬蔵	7:45～ 8:45	3,385	66	2.0	0.573	0.648	0.075
07	清水台	7:45～ 8:45	2,939	59	2.0	0.673	0.698	0.025
08	稗原公民館・稗原	7:30～ 8:30	2,754	43	1.6	0.668	0.683	0.015
09	ヨネッティー前	14:00～ 15:00	1,588	64	4.2	0.507	0.570	0.063
10	柿生	7:15～ 8:15	1,579	24	1.5	0.685	0.703	0.017
11	黒川	8:45～ 9:45	1,542	36	2.4	0.588	0.625	0.037

注1. 表中に示した設計交通量は、(実測交通量または需要交通量) + 工事用車両台数である。

需要交通量 = 実測交通量 (停止線通過台数) + 1 時間毎の渋滞長の増減分 (車両台数に換算)

(詳細は「資料編1-9 自動車実測交通量調査結果と需要交通量算定結果」参照)

注2. 工事用車両の配分の詳細は、「資料編1-10 交差点需要率算定表」に示す。

2) 交通安全への影響

ア. 予測手法

ア) 予測項目

予測項目は、工事用車両の走行に係る交通安全への影響とした。

イ) 予測方法等

イ) 予測地域

予測地域は、工事用車両の走行に係る交通安全への影響を受けるおそれがあると認められる地域として、調査地域と同様とした。

㊦) 予測時期

工事期間中とした。

㊧) 予測方法

工事用車両の走行に伴う交通安全について、工事に使用する道路における交通安全施設の整備状況をふまえ、交通安全に対する影響を定性的に予測した。

イ. 予測結果

本事業では、工事に使用する道路は、可能な限り狭あいな道路を避け、主要幹線道路を主に使用する計画である。工事用車両の走行による交通安全への影響の予測結果を、表5-2-16に示す。

表 5-2-16 工事用車両の走行に伴う交通安全への影響の予測結果

市区		調査 地区	計画施設 の種類	工事用車両の走行に伴う交通安全への影響
川崎市	中原区	等々力	非常口 (都市部)	工事施工ヤードの出入口の設置を計画している市道幸多摩線は歩道のない区間がほとんどであるが、多摩川堤防上にサイクリングコースが整備されている。また、主な交差点には横断歩道及び信号が整備されているほか、歩道橋が設置されている箇所もある。以上のことから、本地区では、工事従事者への講習・指導、工事計画の周知、交通誘導員による誘導を行うことによって、交通安全は確保できると予測する。
	宮前区	梶ヶ谷	非常口 (都市部)	工事用車両の走行が予定されている市道尻手黒川線へは、信号交差点を介して出入する予定である。同市道は、歩車道が分離されており、主な交差点には横断歩道及び信号が整備されているほか、歩道橋が設置されている箇所もある。以上のことから、本地区では、工事従事者への講習・指導、工事計画の周知を図ることによって、交通安全は確保できると予測する。
		犬蔵	非常口 (都市部)	工事施工ヤードの出入口の設置を計画している市道尻手黒川線及び工事用車両の走行が予定されている県道 13 号、市道梶ヶ谷菅生線（Ⅲ）は、歩車道が分離されており、主な交差点には横断歩道及び信号が整備されている。以上のことから、本地区では、工事従事者への講習・指導、工事計画の周知、交通誘導員による誘導を行うことによって、交通安全は確保できると予測する。
	麻生区	東百合丘	非常口 (都市部)	工事施工ヤードの出入口の設置を計画している市道尻手黒川線及び工事用車両の走行が予定されている市道尻手黒川線（Ⅲ）、市道野川柿生線（Ⅶ）、市道麻生 6 号線、市道王禅寺 35 号は、歩車道が分離されており、主な交差点には横断歩道及び信号が整備されている。以上のことから、本地区では、工事従事者への講習・指導、工事計画の周知、交通誘導員による誘導を行うことによって、交通安全は確保できると予測する。
		片平	非常口 (都市部)	工事施工ヤードから県道 137 号までは、工事用道路を新設し、取り付ける計画である。県道 137 号は、道路に面して柿生小学校が立地するが、一部区間を除き歩車道が分離されており、主な交差点には横断歩道及び信号が整備されている。以上のことから、本地区では、搬入時間等の検討、工事従事者への講習・指導、工事計画の周知、交通誘導員による誘導を行うことによって、交通安全は確保できると予測する。

(4) 環境保全のための措置

工事用車両の走行に係る環境保全対策として以下の措置を講じる。

1) 交通量、交通流への影響

- ・発生土の運搬について、貨物列車運搬等を含む車両走行ルート分散化を図るなど工事用車両の走行による影響の低減を図る。
- ・必要に応じて資材及び機械の運搬に用いる車両の走行ルートの変更及び走行時間帯の管理等を行うことにより、車両の集中による交通流への局地的な影響の回避又は低減を図る。

2) 交通安全への影響

- ・工事用車両について、決められた工事に使用する道路を遵守するとともに、指定した搬入時間を遵守することで、安全管理を徹底する。
- ・工事用車両の運転手に対し交通マナー、工事施工ヤード予定地への出入時における一旦停止及び歩行者優先等の安全運転教育を徹底する。また、周辺の通学路、通学時間帯、安全施設の設置状況及び歩車分離区間等の安全確保に係る情報の伝達を徹底し、注意喚起することで、事故の発生を未然に防止する。
- ・工事を行う期間等、工事計画の内容について周辺住民の方への適切なご説明を行うことで、交通の安全性を確保するための注意喚起を促す。
- ・工事用車両の走行時には、工事施工ヤード出入口に交通誘導員を配置し、工事用車両の出入を誘導することで、安全かつ円滑な通行を確保する。
- ・工事用車両の整備を徹底することにより、故障及び不具合による事故発生を未然に防止する。

(5) 評価

1) 交通量、交通流への影響

予測地点での交差点需要率は0.570～0.814であり、交差点交通流に支障が出るとされる0.9をいずれも下回った。なお、設計交通量に対する工事用車両の割合は0.7%～4.2%、交差点需要率の増加分は0.000～0.093である。

本事業では、発生土の運搬について、貨物列車運搬等を含む車両走行ルート分散化を図るなど工事用車両の走行による影響の低減を図るとともに、可能な限り混雑時間帯を避けた時間帯に車両が走行するよう走行時間帯を管理し、交通流への影響を極力抑制するよう配慮する。

また、具体的な走行計画の策定にあたっては、事業の実施段階までに交通管理者及び道路管理者と協議し、適切であると考えられる走行計画を策定する。

したがって、交通量、交通流への影響は、法対象事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減が図られており、周辺地域の生活環境の保全に支障のないものと評価する。

2) 交通安全への影響

本事業では、工事に使用する道路は、可能な限り狭あいな道路を避け、主要幹線道路を主に使用する計画であり、工事に使用する道路及び指定した搬入時間の遵守、工事従事者への講習・指導、通学路、通学時間帯等の安全確保に係る情報伝達及び注意喚起の徹底、周辺住民の方に対する工事期間等の工事計画内容の適切なお説明、交通誘導員による誘導及び車両整備の徹底等により、交通安全の確保を徹底する。

また、具体的な工事計画の策定にあたっては、交通管理者及び道路管理者と協議を行い、安全かつ円滑な交通の確保に配慮した計画を策定する。

以上のことから、本事業の実施に伴う影響は、法対象事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減が図られており、周辺地域の生活環境の保全に支障のないものと評価する。